

能美市医師会とのタウンミーティング

日 時 令和8年1月18日（日）17:35～18:10

会 場 たがわ龍泉閣

参加人数 33人

1) 開会

2) 能美市医師会 佐久間会長挨拶

3) 市長 市政報告

○ふるさと能美市の現況

- ・能美市の総面積は84km²で、山林面積が約40%を占める。
- ・県内19市町の中で、人口は上から6番目、面積は下から6番目、人口密度は上から4番目、工業製品出荷額は上から4番目である。女性の就業率も上から4番目、人口当たりの外国人比率は県内1位である。
- ・特産品は丸いも、ユズであり、たまねぎの生産量も多い。
- ・自治体の勢いを示す指標の中でも人口が重要であると考え、能美市では事業・施策の7本柱、5つの方針・目的の全てが移住・定住の促進につながるよう取り組んでいる。
- ・能美市では自然動態はマイナスである一方、社会動態はプラスであり、自然減を社会増でカバーして、現在は人口が微増している。
- ・高齢化率は少しずつ上がっており、市内には100歳以上の方が現在40名いる。内訳は男性3名、女性37名である。近隣市町では、加賀市や小松市が能美市よりも高齢化率が高い。
- ・市内の外国人人口が増えており、令和8年1月1日現在1,746人となっている。国籍別で

はベトナム人が最も多く、次いで中国人であり、最近ではインドネシア人やミャンマーの人が増えてきている。企業で働く外国人が多いことに加え、北陸先端科学技術大学院大学の学生がいることが背景にある。

- ・合計特殊出生率が全国や石川県で低下する一方、能美市は上昇している。能美市で「子どもを産んでみたい」と思う人が増えてきたことが結果にあらわれているのではないかと考えている。

- ・令和7年の出火件数は、前年よりも少なかったが、救急車の出動件数が増えている。急病や交通事故が増えてきていることが要因である。能美市だけでなく、県内でも交通事故の発生件数が前年よりも多かった。

- ・石川県は特殊詐欺の被害が多く、能美市も被害が増えている。最近では警察官や有名人を騙るケースもあり、高齢者だけでなく若い人も被害にあっている。

- ・市税が大変好調であり、要因として企業誘致や地元の会社の好調により、固定資産税増、人口増、賃金上昇していること等が挙げられる。令和元年に初めて90億円を超えて、令和7年はおそらく過去最高の額となるのではと予想している。

○スマートインクルーシブシティ構想

- ・市内公民館にWi-Fiを整備し、デジタル公民館として様々な取り組みを進めている。例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室、若い世代はeスポーツ体験、子どもたちはChromebookを持参して学習などで公民館に来てもらう。さらに、子どもが学習で分からない点を高齢者や子育て世代に教わる、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞く、といった多世代交流を公民館でできないかと考えて進めている。

- ・医師会の皆さんにもご協力いただき、オンライン診療にも取り組んでいる。今2つの町と1つの企業で実証を進め、近い将来、学校の保健室でもこのオンライン診療ができないかなと考えている。皆さんの知恵やお力を拝借して進めていきたい。

- ・家にいても安全・安心、快適に暮らせるように、IoT家電を使った見守りにも取り組んでいる。IoT家電にセンサーがついていて、人の動きがないことを感知すると、ケアマネジャー等やコールセンターへ通知される仕組みを考えている。

- ・ライドシェア「ノルノミ」や買物代行も開始したが、両事業とも利用者が少ない。なんとか利用者を増やせないかと検討している。

- ・医療情報ネット（ナビイ）というサイトで、症状をもとに病院を検索する仕組みがあり、多くの皆さんが利用している。英語だけでなく他の言語にも対応しており、国際交流協会

にもサイトの情報を共有し、市内に住んでいる外国人の方が、安全安心に暮らしてもらえよう取り組んでいる。

・石川県にはID-Linkといういしかわ診療情報共有ネットワークの仕組みがあり、能登半島地震のときに能美市へ避難した方がID-Linkに登録してあったことから、能美市でも薬をもらえたり、透析を受けたりすることができた。万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに医療を受けることができるよう共通電子カルテの準備を進めている。また、カルテを共有することで、病院とクリニック間の情報の共有、それから医療と介護の情報の共有等ができるほか、緊急搬送時等にも必要な情報を取り出せるようになる。

・皆さんにご協力をいただきながら、のみリンクを運用している。これまで紙で管理していた福祉見守りあんしんマップをデジタル化し、現在約5,000人が登録をしている。情報を増やすとともにアップデートの頻度を高めながら、市民の安全・安心につなげていきたい。

○地域包括ケアシステム

・ソーシャルワーカーやあんしん相談センター、医療コーディネーター、ケアマネジャー等が連携し、地域包括ケアシステムの確立を目指している。

・能美市では、あんしん相談センターを3地区に設け、相談が一か所で完結できるように専門職を多く配置し、対応している。

○能美市立病院在り方検討委員会

・現在、能美市立病院は100床あり、スタッフ215名で診療を行っている。新型コロナウイルス感染症拡大時や能登半島地震時に患者受け入れ対応等を行ってきたが、施設の老朽化、経営状況、人財不足といった課題がある。

・施設の老朽化については、本館が築36年、東棟は築46年で、建屋だけでなくボイラーや空調設備、照明器具等も老朽化しているほか、漏水も発生している。

・能美市居住患者（国保加入者）の外来受診先は、6割が能美市内、4割が市外となっている。能美市居住患者（国保加入者）の入院先においては、7割以上が市外の病院あるいは医療機関で入院をしている。皆さんの協力を得ながら、市内の比率を高めていきたい。

・救急搬送患者の内訳は、管外59%、管内41%となっている。管内搬送を高めるために、夜間だけでなく昼間に管外搬送しているケースを管内で受け入れられるように取り組んで

いくことが課題である。

・新型コロナウイルス感染症拡大時には国からの交付金もあり、能美市立病院の収支はプラスとなっていたが、令和6年度には収益と費用が逆転し、赤字部分を市の一般会計から補填している厳しい状況である。市の財政状況も厳しく、能美市立病院単独で利益を出せるようにしていかなければならないと思っている。

・はまなすの丘も老朽化が激しく、また医療スタッフの確保が難しいことから、4月からはまなすの丘の入所者を能美市立病院で受け入れ、病院の併設型小規模老人保健施設として運営をしていきたいと考えている。

・これらの課題を解決するため、在り方検討委員会を立ち上げ、佐久間会長にもメンバーに加わっていただき、議論を進めている。現在までに3回開催し、「みんなの能美市立病院」としてコンセプトを設計している。

・高度専門医療等は他の病院にお任せし、能美市立病院は地域包括ケア中心の病院とする。かかりつけ医との連携も強化し、患者の紹介や逆紹介の推進、検査や検査入院の受け入れ、バックベットの確保、場の提供などを行っていく。

・重症患者や休日・夜間の中等症患者の受け入れは、近隣の大きな病院にお願いし、ある程度治療が進んだあと、受入後転院搬送として能美市立病院等で患者の受け入れを行う体制をとろうと考えている。

・能美市立病院を中心にデジタルの力を使って、様々な医療ネットワークを繋ぎたいと考えている。また、新型コロナウイルス等の状況も鑑み、平時の感染症対策の指導や訓練、感染症発生時の実地指導、相談対応等を能美市立病院が中核となっていく感染ネットワークの拠点としたいと考えている。

○30年・50年続く能美市を目指して

・これから20年、能美市の人口は減っていき、高齢化もさらに進んでいく。市として、できるかぎり現状を維持できるよう取り組んでいく。

・事業・施策の7本柱として様々な取り組みを行っている。

・市民の生命と財産を守ることを最優先に取り組んでいる。水害時に災害対策本部が支障なく開けるよう地下にある電気設備を1階に移すとともに、大災害時に派遣者等の受け入れや避難物資を管理する場所の確保と避難所設営担当の教育委員会を本庁舎に移すために、本庁舎横に防災・機能強化施設を建築する。

- ・保育園の民営化に取り組んでいる。園舎の老朽化や幼児教育への要望を受け、公立保育園15園のうち、3園を民営化し、現在は4園目の民営化を進めている。
- ・企業誘致が大変好調なことから、人財不足を解消するため、宅地造成等を行っている。
- ・学校の老朽化が市の大きな課題の一つとなっている。現在、タブレットを使った授業をしているが、机が狭くタブレットと副教材を置くことができない。机を広げるためには、教室も広げる必要がある。また、市内には小中学校が11あるが、築50年以上が面積比で35%を占めている。順番に立て替えるが、莫大な費用が必要である。一番老朽化が激しいのは浜小学校であり、着工に向けて来年度、進めていきたいと考えている。
- ・のみでん広場の車両を能美根上駅へ移設し、無人コンビニとして活用する計画である。おそらく全国に同様の事例がないので、人気が出るのではと思っている。
- ・辰口フラワーハウス跡地周辺には動物園や丘陵公園等があるため、特産品を一堂に集めて「道の駅」的機能を持つ施設を整備したいと考えている。
- ・あらゆる自然災害時に24時間365日いつでも、身体が不自由な人や高齢者等が災害時に取り残されずに避難できるよう個別避難計画の作成を順次進めている。
- ・こどもまんなか社会に取り組んでおり、妊娠期から子どもの青年期まで、切れ目のない支援をするため、サンテの中にこども相談ステーションを設けている。また、高止まりする不登校児に対応するため、教育センターをサンテの後ろにある生活支援ハウスの建物に移し、こども相談ステーションと一体となって、こどものサポートを行う。
- ・人財確保のため、市内の高校生と企業のマッチングを支援する企業ガイダンスを開催している。
- ・部活動の地域展開を進めており、現在、7種目を地域の人に教えてもらっている。
- ・市役所職員の人件費が高騰しており、地方公共団体の基幹業務システムの統一・標準化対応、除雪等にも費用がかかっている。
- ・費用削減のため、ペーパーレスに取り組み、3年間で約1,700万円の経済効果が出ている。また、タスクフォースチームを立ち上げ、全事業・施策の見直しを行っている。市民のニーズや要望、状況に対応できるよう取り組んでいきたいと思っているので、ぜひ皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

4) 閉会